シナジー効果を生む

チーム力の伸ばし方 ❶

※356号から3回にわたって「チーム力の伸ばし方」をご紹介します。

野原 秀樹 氏
愛知県名古屋市出身。18歳でジャズダンスをはじめ、19歳で上京してバレエを学ぶ。日本バレエ協会公演、松山バレエ団など多数の作品に出演する。その後バレエをはじめ、アート、エンターテイメントの普及活動に取り組む。2008年に㈱MANY ABILITIESを設立。舞台人としての経験をもとに、インプロ（即興）や演劇などのエッセンスを活かした体感型のコミュニケーション能力向上プログラムを提供。多くの企業、学校、病院などで研修に採用されている。

株式会社 MANY ABILITIES　http://many-abilities.com/

チーム力を高める「チームビルディング」

ビジネスに求められるチーム力

ひとつの目的を達成するために、複数の人間が集まり、協力し合うとき、そこにチームが誕生します。ある特定のチームが、課題や目標に対して役割を分担し、リーダーシップやメンバーシップを発揮しあってコミュニケーションを図り、一定のルールのもとにタスクの課題解決に集中し、シナジー効果を生み出す手法を、チームビルディングといいます。

この複雑化した現代社会の中では、一人の力で全てを成し遂げる、ということはとても難しいといえるでしょう。誰かと関わり、助けあいながら、成果は導き出されていくのです。ですから人を変え、形を変えながらも、私たちは常に何かの“チーム”の一員として、活動していくことが必然ともいえるのです。

同時に、現代の社会はICTの活用が進み、世の中に様々な情報があふれています。私たちは個として、手軽に情報を受発信できる。従って個の力が求められ、個が脚光を浴びる社会でもあるのです。

こうした時代に求められているのは、チームの仲間として協力し合いながら、その中で個人個人が自分の能力をきちんと理解し発揮できる環境にあることです。「チームビルディング」という手法が注目されるのも、そうした背景によるものといえるでしょう。

同じ目標に向かう

チームビルディングという概念のもと、私たちが効果的な組織づくりをしていくために、まず重要なことは、チームのメンバー全員が同じ方向を向き、同じ目標を持って努力をするということです。

もともとチームは、あるひとつの目的を成し遂げるために集められた共同体です。それを自覚し、我々が何を目指すチームなのかという目的を、全員が共通認識として持っていなければなりません。

目的を認識するとは、それが何のためにあるのか、誰のためになるのか、どのような成果が求められているのかを、全員がブレなく理解すること。また、その目的（たとえば、新商品をヒットさせる）があれば、さらにその先にある効果（多くの人がこの商品を使うことで、生活が便利になる）まで見据えて、ゴールに向かっていく意識を持つことがとても重要です。

最終的なゴールをチームの全員が理解し、同じ方向を向くことで、それぞれの役割や課題が見え、個々がするべきこととチームとしてやるべきことが明確になります。すると個の力を結集したうえでチーム力が高まり、ひとつの方向へ向かう加速度がつきます。それこそが一人の力では不可能なことを可能とする、チーム力の素晴らしさとなります。

リーダーに求められる条件

チームには、リーダーが不可欠です。リーダーの能力の優劣がチーム力の差になり、成果の有無を左右します。

チームビルディングを実践するうえで、求められるチームリーダー像について考えてみましょう。リーダーに大切なのは、他のメンバーが力を出しきれる環境を整えること。そのために求められるスキルが、「影響を与える力」と「受け止める力、調整する力」です。

「影響を与える力」とは、自身の存在をもって、メンバーに前向きに意欲をもたらすことです。そのためには自ら率先して動き、範となるべき行動を心がけることです。「こうしなさい」と指示するだけでなく、「こうするのですよ」という自分の姿を見せてこそ、人はその姿に従うことができるのです。

さらに「受け止める力、調整する力」。チームでは様々な人が異なる行動をとることがありますが、それを肯定的に受け止め、評価する姿勢を常に持ち、目標とする場所に向かえるように、調整していく力が望まれます。

こうした力を備えたリーダーのもとでは、一人ひとりが積極的に行動をしながら、一つの目標に向かっていくチーム力を発揮できるようになります。

フォロワーの役割

フォロワーとは、リーダーを補佐する役割の人をいいますが、チームにおいては、メンバー全員がリーダーでありフォロワーであるという自覚を持つことが大切です。フォロワーには、指示に従って成果を上げるだけでなく、自発的に意見を述べたり、リーダーの誤りを修正することも求められます。積極的なフォロワーの立場を自覚できると、リーダーとコミュニケーションを取りながら、主体的に支えていく意識が高まり、また集団で目的を達成していこうという意欲にもつながっていきます。

個の力をそれぞれが発揮して、チームとして一つの目標に向かって邁進していく。ロケットを打ち上げるような爆発的な推進力をもって、加速度的に進化していくことを可能にするのが、「チームビルディング」という発想です。あなたももう一度、自分のチームを見直してみませんか？

身振り手振りを交えて語る野原氏

★次回357号は、「チーム力を高めるコミュニケーション」について説明します。

HUMAN HUMAN プラスはウェブサイトへ

eふぁみり もあわせてご覧ください！
http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/

バレエを通して広がった感動的な出会いについて、語っていただきました。